

建設従事者の賃金実態

賃金・労働時間(1日8時間、週40時間)・働き方改革・週休2日・適正な工期・・・



2025年の賃金討議では、各組合の基礎組織で賃金・生活討論がされ、7,833枚の回答を頂き貴重な情報を得ることができました。この結果を活かし、仕事・生活を良くしたいという仲間の思いを大切にして建設産業で働仲間の処遇改善に取り組みます。

生活

仲間の実態！！2025年度生活が「苦しい」69.5%

生活実感について、「まったく厳しい」、「やや厳しい」が69.5%（昨年比1.3%減）、多くの仲間の暮らし向きが厳しいことには変わりはありません。公共工事設計労務単価の引き上げ、人手不足による労務費の引上げなどが、現場へはまだ浸透していないことがわかります。

賃金

2024年賃金調査 東京都連の平均賃金は18,131円(常用)

全建総連東京都連の2024年賃金調査では、平均年収533万5,809円と前年比12万5,579円増、2012年と比較すると約119万円増となっています。しかし、東京の男子労働者より約120万円低く、公共工事設計労務単価と比べると9千円～1万6千円の開きがあり、その差は開き続けており、私たちが求める水準には至っていません。

平均賃金(日額)	全建総連東京都連の 2024年賃金調査
常用	18,131円 対前年 -202円増
手間請	23,659円 対前年 -788円増
一人親方	23,049円 対前年 -1,201円増
公共工事設計 労務単価	32,700円(建築工2024年度)

建設業の諸課題

働き方改革による休日・家族との時間の増加27.4%

働き方改革による改善は「休日・家族との時間の増加」が27.4%、「賃金のアップ」が22.0%、「見積・価格交渉への根拠」が12.0%となっています。一方で「分からない」との回答が40.1%と改善の実感がない実態が明らかになりました。

また対応できていない働き方改革については、「休日と工期の調整」39.9%、「時間外労働の上限規制への対応」23.2%となり、昨年よりは下がったものの厳しい実態が明らかになりました。

私たちが求める賃金

日額34,000円・月給70万円・年収840万円をめざす

暮らせる・後継者が育つために私たちが「これだけは欲しい賃金額」として、将来的に目指していく賃金を「標準賃金」としています。

具体的には、諸経費・法定福利費別枠で日額3万4,000円（CCUSレベル2）、月額70万円、年収840万円です（1日8時間・週40時間、週休2日）。

【根拠】

「都民のくらしむき」報告（東京都生計分析調査）では、2024年10月の勤労者世帯（世帯人員3.25人）の平均収入は約69万3,000円、この水準を目安に設定しています。ただし、仲間の実態は、この標準賃金には遠く届いていません。組合アンケートには「1ヶ月16万円以上の上乘せして欲しい」との切実なアンケート回答が寄せられています。そこで当面20日程度の勤務で1日当たり5,000円以上の引き上げを求めていきます。

「自ら声を挙げることなしに事態は進まない！」 空前の賃上げ情勢を活かし、
今こそ請求・要求の声をあげて賃金単価引き上げを勝ち取りましょう！